



脚本 愛と巖



karasuno10

[http://unohirotest.mydns
.jp/hiroshi/cgi/top.pl](http://unohirotest.mydns.jp/hiroshi/cgi/top.pl)

愛する一瞬

愛と巖

烏野
博史

人物

たからべあい

財部愛

(54) ※ 30 宝石店主 ※ 写真のみ

たからべいわお

財部巖

(55) ※ 31 その夫 ※ 写真のみ

いしわたりれい

石渡礼 (30) 地方裁判所・執行人

あまくさるりこ

天草瑠璃子 (54) 資産家

① 財部宝石店・事務所（夜）

奥の社長椅子に財部愛^{たからべあい}（54）、手前の

応接用ソファに財部巖^{たからべいわお}（55）が座つ

ている。愛の机には開かれた雑誌と、

プロレスリングでマッスルポーズをと

る財部愛（30）と財部巖（31）の写真。

愛と巖は筋肉質で、愛は巖以上の巨体。

愛「つまり、借金をして競馬にぶち込んで、

ボロ負けしたと……そういうわけかい？」

巖、うなづく。

愛「冗談じゃないよ。まったく！ 子供達が

出てった後で良かったよ」

愛、机を叩く。

巖「すまねえ、母ちゃん。俺としてはだな、

母ちゃんのコレクションを増やしてやりた

いなと——」

愛「それで誰に借りたんだい？」

巖「……バーで知り合った、貴婦人」

愛「だあかあら、何でバーで知り合った貴婦

人が、見た目もよくなって、金にだらしな

「いアンタに大金を貸すんだい!？」

巖「俺が粹な男だから——」

愛「(即座に)名前は？」

巖「……天草瑠璃子ちゃん」

愛、目を見開く。

愛「……あたしのコレクションの事、しゃべつちやいないだろうね？」

巖、小刻みにうなづく。

社長机の上の雑誌の記事、「宝石セレクト、天草瑠璃子さんのお部屋拝見！」

に宝石で飾られた部屋に座る天草瑠璃子の写真が添えられている。

愛「いいかい。ウチにそれだけの価値のある

宝石はない。それで通すよ。わかったね!!」

巖「アイアイサー！」

巖、敬礼。

② 同・店内

愛、カウンターの奥で巖にプロレス技、ネック・ハンギング・ツリーをかけて

いる。カウンターには宝石が陳列されている。

愛「この！裏切り者のクソ亭主!!」

愛と巖の側に立ち尽くす天草瑠璃子あまくさるりこ（

54）と石渡礼いしわたれい（30）。

巖「母ちゃん！お客さん！お客さん！」

愛「店閉めているのに客が来るわけないだろ！」

巖「（悲鳴）」

愛、眼輪筋をピクつかせる。

愛「あきれてものもいえないね!!借金作る

だけじゃ飽き足らず、秘密も守れないなん

て、こんな駄目亭主と結婚したなんて恥ず

かしいったらありやしないよ！」

巖「し、仕方ねえだろ！うちの酒が切れた

んだから!!」

愛「何だつてえ！」

愛、カウンターに巖を押し付ける。カ

ウンターの宝石が床に飛び散る。

石渡、あわてて愛にかけよる。

石渡「お待ち下さい。私たちは借金返済のた

めの差し押さえに来たのであって、お二人の仲を引き裂きに来たものではありません！
そうですね天草さん！」

瑠璃子「そうねえ。茶番はいいわ。あるんでしょ？ ブルーサファイアを出しなさい」

愛、乱暴に巖から手を放す。

愛「離婚だよ！」

愛、カウンターでふてくされて座る。

巖「母ちゃん……」

巖、愛のほうに手を伸ばす。

③同・事務所

応接用の机でノートをつけている石渡。

石渡の隣には瑠璃子。手前の席には巖。

社長椅子に座り背中をむけている愛。

石渡、瑠璃子を見る。

石渡「差し押さえできるものは、これだけのようです」

机の上に広げられているノートの内容、差し押さえ物品表。

瑠璃子「そうねえ……全然足りないわね」

瑠璃子、ノートを見る。

石渡「他に預金口座はありますか？」

巖「ないよ……」

愛、うつむく巖を横目でみる。

瑠璃子と石渡、顔を見合わせる。瑠璃子、居住まいを直す。

瑠璃子「率直にもうしあげます。わたくしはブルーサファイアさえ手に入れば示談しても良いと考えています」

愛と巖、瑠璃子を凝視する。

瑠璃子「あるのでしよう？ 店のどこかに」

巖、うなだれて、首を横にふる。

瑠璃子「巖ちゃんの口から聞けなくて残念だわ。石渡さん、店の陳列棚を動かしましたよ。地下格納庫への扉があるはずよ」

愛、勢いよく立ち上がる。

巖と瑠璃子と石渡、愛を見る。

愛、瑠璃子をにらみつけながら、ゆっくりと座る。

④同・店内

動かされた陳列棚と、四角く切れ目が入った床。

石渡の声「ありましたね」

巖と石渡、切れ目の前でしゃがみ込んでいる。石渡の背後、床を覗き込んでいる瑠璃子。巖の背後で仁王立ちの愛。巖、愛を見る。

愛、憤怒の表情。

巖「待ってくれ！ 頼むよ！」

巖、石渡の肩を揺らす。

石渡「残念ながらそれはできません。差し押さえの執行が私の仕事だからです」

愛想笑いをする巖を見る愛。

⑤同・地下格納庫

愛が明かりをつける。愛の目前で部屋を巡回す瑠璃子と石渡、愛の横で肩を落とす巖。部屋は宝石で飾りつけられ

ており、部屋の中央の台座には、ブルー
サファイアが飾られている。

石渡「すごいですね。ここにあるものは巖さ
んの物ですか？」

巖「いや、これはぜんぶ、母ちゃんの……」

巖、愛を見る。

石渡「……そうですか」

石渡、台座に近づく。

瑠璃子、ブルーサファイアを持ち上げ
うっとりする。

瑠璃子「あつたわ。ブルーサファイア——」

愛、瑠璃子からブルーサファイアを奪
い取り、台座にしがみつく。

愛「これは私んだよ！ 誰にも渡さない！」

瑠璃子と石渡、啞然とする。巖、瑠璃
子と石渡の前に回りこみ土下座。

巖「お願いです！ ここにあるものだけは勘
弁してくれませんか。俺のプロレス時代の
マスクをあげますから！」

巖、ポケットからマスクを取り出す。

石渡「いえ結構です」

瑠璃子「(同時に) いらないわ」

巖「……仕方ねえ」

巖、マスクをつけ、立ち上がる。

巖「悪いが、俺は母ちゃんを助太刀するぜ！」

巖、プロレスの構えで、水平チョップ

の素振りをし、体を左右に揺らす。

愛、啞然として、巖の背中を見上げる。

瑠璃子「往生際が悪い」

瑠璃子、石渡の後ろに隠れる。

石渡「天草さん。刺激しないで下さい」

瑠璃子と石渡、後ずさる。

巖「今だ！ 母ちゃん行け！ あとは俺が引

き受ける！」

巖「(雄叫び)」

石渡「(絶叫)」

瑠璃子「(悲鳴)」

愛、タツクルの体勢の巖の尻をける。

倒れた巖の胸ぐらをつかむ愛。

愛「恥ずかしいったらありやしないよ」

巖「ええ!? 母ちゃんだって……ええ!?」

愛「元はと言えばあんたが……あんたはなん
でそんな馬鹿ばかりするのさ」

巖「……愛、だよ」

愛、目を見開く。

巖「愛しているからだよ! 愛してい——」

愛「馬鹿言ってるんじゃないよ馬鹿亭主!」

巖「OK……」

愛、巖から手を放す。愛と巖、俯く。

台座に急いで歩み寄る瑠璃子と石渡。

石渡「差し押さえさせて頂きますね」

瑠璃子、嬉しそうにブルーサファイア
を手に取る。

ノートをつける石渡、愛と巖を見る。

石渡「……もし、この宝石が奥様のもので、

旦那様のために売却したくないなら、しな
くても良いんですよ。義務はありません」

愛と巖、顔をあげ、石渡を見る。

瑠璃子、石渡を驚愕の表情で見る。

石渡「借用書の連帯保証人の名義、本当に奥

様に憶えがないなら、裁判所に出向き、申し上げてくれれば良かったんです」

瑠璃子「石渡さん？ なにを……」

石渡「もちろん、その場合、旦那様の債務は継続されます。どうなさいますか？」

巖と瑠璃子と石渡、愛を見る。

愛、巖を一瞥して、石渡を見る。

愛「……持っていくな」

巖「ええ!? ま、まって下さい！ それは母ちゃんの大切なものなんです」

巖、瑠璃子の腰に抱きつく

瑠璃子の顔に笑みが広がる。

瑠璃子「でも、ねえ、私としても巖ちゃんに

貸したお金返してもらわないと……」

愛、巖を瑠璃子から引き剥がす。

愛「良いんだよ父ちゃん久々に、あれやるよ」

巖、一瞬眉を顰め、合点がいった顔。

愛と巖の服が宙に投げ捨てられる。

ビキニ姿の愛と海パン姿の巖、マッスルポーズをきめる。

著者HP： [鳥野の箱庭](#)

